



10・3国鉄集会

被告団、家族会主催 JR職場はじめ、100名

河村弁護士が1047名闘争の団結を確信強く訴え

富田被告団副団長が8名全員の無罪獲得・国労再生を基調で提起



東京から弁護団の河村健夫弁護士がかけつけ特別講演を行った。「この事件は4党合意受け入れをめぐるの国労内部の路線対立であり、裁かれているのは4党合意である」「正当な労働組合活動であり無罪であること、しかも裁判の中で検察が主張する『暴行』が存在しないことが明らかになっている」とビデオの超微細分析の結果からわかりやすく説明された。むしろ、本部派がピラを受け取らずに集団で強行突破を図り、被告人たちに暴行をふるい、事件を引き起こしていた様子が明らかとなった。鉄建公団訴訟の弁護団をしていたことがきっかけで国労5・27臨大闘争弾圧の弁護団を引き受けた思いから、1047名、国労・全動労・動労千葉の3者が協同で鉄建公団訴訟をはじめ

とする統一行動を取ることの重要性を強く訴えられた。

富田益行被告団副団長は「不当勾留中にイラク反戦で世界の労働者が国際連帯、イラク人民の解放闘争に拍手した」「5・27臨大弾圧のキーワードは国労再生。労働組合の原則、国労綱領の原則で闘う。国労は8・30申し入れで『会社の発展に寄与する』これから坂をころげ落ちた。西日本本部がイラク復興支援で上村とJR連合・森が握手している。連合合体の役員体制だ。侵略戦争に行き着く。全分会の決起をつくり、反対の声をあげ、闘う国労を再生する」と発言した。



「最高裁で負けようと解雇撤回・JR復帰は譲れない！」熊本闘争団・蓑田さん

熊本闘争団・蓑田さんは「私たちにかけられた攻撃は中曽根が国労を潰し、社会党。総評を潰す戦後政治の総決算攻撃だった。これに国労として反対した。私は24歳で解雇。6年しか働いてない、非常に悔しい。鉄建公団訴訟は一人一人が中心になって動く、共闘を広げるといふ決意が求められた。この訴訟でいろんな攻撃あった。本部からは生活援助金25000円を打ち切られた。熊本では24名中、14名が訴訟。それが打ち切られ、非常事態になったが、それでもやっていこうとなった。国鉄時代に国労バッジをつけているだけで小部屋に押し込



められて「蓑田職員、採用されません」の一言で解雇された。絶対負けてたまるかということで闘ってきた。鉄建公団訴訟は、建交労と千葉動労が加わってくる。闘って解決するという陣形を大きくしていく。変な解決をすると、他の組合に影響を与える。これはしていけないし、させない。鉄建公団訴訟は勝てば公団社員になる。鉄建公団の100%株主のJRに返せという運動をする。現場で国労を拡大し、闘う国労を作っていく。そこまでして国鉄闘争は勝利といえる。解雇撤回JR復帰は譲れない。最高裁で負けてもこれは譲れない。」と力強く訴えた。

無罪獲得・国労再生・1047名闘争勝利！ 不当逮捕2周年弾劾集会が大成功！ 越える労働者・労働組合が結集！ 被告団・家族会が元気に全員登壇し決意を表明



右から、被告団の橘日出夫さん、東元さん、小泉伸さん、原田隆司さん、下は右から原田明美さん、木村綾さん、富田美帆さん、小泉鈴美さん

橘日出夫被告団副団長は主催者あいさつで「被告団の勝利と国鉄闘争の勝利を一体もの。世の中が戦時下にはいった。既成指導部をのりこえる闘いがアメリカの100万人行動や韓国・民主労総の闘いで始まっている。侵略戦争と資本との攻撃と戦う労働運動が主流派になる。11・7日比谷野音に集まろう。被告・家族は全力でたたかう」。小泉伸さんは「伊豆の修善寺大会で山崎執行部をぶっ飛ばした時、六本木委員長が『敵より一日長く』と発言した。5・27臨大では闘争団除名ゆるさない、これ認めたら、国労はイラク戦争に協力してしまうと決起した」東元さんは「毎回の裁判では多くの仲間が駆けつけてくれ、家族も支えてくれた。一人の病者の決起がどれだけ多くの人を勇気付けているかを知った。最後まで国労の大儀を捨てずに闘えば必ず勝利できる」。原田隆司さんは「職場では区長が『完全民営化に反対している人がいる』などといったきたが、追及したら『ひとりごと』と逃げた。」R職場で闘いぬく」と決意をのべた。家族会の小泉鈴美さんがカンパアピールを行い、原田明美さんが「2年まえ晴天のへきれきの不当逮捕から、生活は激変しピラで訴える日々、国労本部の方針に従わないからと言われ、なんで闘争団をきりすてるなどといったことがあかんのかと家族会結成し夫たちの正しさ分かった。完全黙秘でお父さんたち誇りに持てることをしたと感じた。国会では改憲、教育基本法、イラクに国鉄闘争団を派遣する方針まで出ている。私たちは無罪まで闘う」と決意表明を行った。会場には被告団の職場の仲間たちもかけつけてくれ、勤労千葉、鶴見不当配属事件で勝利命令をかちとった国労東京の保泉さんや、京滋地区本部の仲間からメッセージが寄せられた。



（この部分は上記の長い文章の一部を再掲し、重複を避けるため省略）

連帯労組関西生コン支部、港合同から11・7全国集会の特別アピール



関西生コン支部・武谷執行委員(右)は「権力弾圧は労働組合の内部問題につけこんでくる。イラク侵略が行われている今、他人事ではない」、港合同・辻岡執行委員(左)は「被告団の国労組合員たちと四党合意撤回の地労委を取り組んできた。時代の転換点の弾圧と闘い、7度目の11月労働者集会への結集を」と訴えた。



